

# 真の地方の時代に向かって

# 初心

## 「初心・情熱」忘ることなく！

### 栃木県知事 福田富一



知事として多くの皆様にお世話になり、お陰様で3年目を迎えることができました。加えて今年には私にとりまして、政治生活25周年の節目を刻む年でもあります。

あらためて、今日までご支援、ご協力下さった多くの皆様に、心から感謝とお礼を申し上げます。

2007年盛夏号

平成19年8月発行  
年2回刊  
題字/福田富一 書

〈発行所〉  
福田富一  
暮しと政治研究所  
〒321-0102  
宇都宮市江曾島町98番地  
TEL 028(645)5100  
http://www.tomikazu.com

### 3度目の全国知事会議

全国知事会議が、7月12日(13日まで、熊本市で開催された。知事就任後、徳島市、松江市に次いで3度目の出席となった。

今回のテーマは、第二期分権改革への取り組みについてが議論の主なものであった。

又、話題としては、東国原宮崎県知事の出席や石原東京都知事の都内開催以外での初出席であり、それぞれの発言が注目を集めた。

二期改革については、①国と地方の税源配分を5対5にする。(現在は6対4で、国が6、一方歳出は4対6で地方が6。ゆえに、補助金や交付税で地方に財源を配分する仕組みとなるため、中央集権的国家と言われている。)②国に6兆円の税源移譲を求める。③国との二重行



3/9 議会終了後の閉場式にて

政を廃止するため、権限移譲を求めるとともに、国の出先機関である地方支分部局の大半を廃止し、その際に、職員を地方で受け入れることを検討する、などの点で合意を得た。

一期改革は失敗であるとの不満を口に、二期改革に慎重な姿勢の知事もあったが、分権改革の旗を降ろせないと意見を集約することで落ち着いた。

石原知事からは『ふるさと税』に反対する立場から、「知事会として消費税を上げることとを主張し、地方の取り分(現在1%が地方消費税)を増やすぐらいの気概を見せては」との発言が。一方で、『ふるさと税』へ賛意を表する東国原知事からも「例えば、全てを地方へ配分すると言うことで、2%程度消費税上げと言わなければならないのでは」といった発言がされた。

町内会費的意味合いがあるゆえに、受益者負担の原則からははじかれるなど、課題はある。しかし、ふるさとを大事にする想いや納税意識の高揚など効果が期待できる。そもそも本県の今春卒業の高校生は約1万人が県外へ進学又は就職をし、県内への進学者等を差し引いても約6,000人が出超となる。福井県の試算では、一人当たり1,700万円の費用がかかる」として、1,000億円の流出とも考えられる。加えて、東京などでの大学生活は、4年間で1,000万円以上の家庭の負担となる」といったことを申し上げ、「栃木県知事としては、6,000人の皆様に嫁や婿に出す思いであり、本当なら持参金の半返しと言いたいところだが、とりあえずは、国の議論を見守りましょうよ。石原知事さん」と申し上げ、会場は大爆笑となった。

小泉前内閣での三位一体改革では、地方への3兆円の税源移譲(今年度から所得税と住民税との間で負担額を更)や4兆円の補助金

その他、①医師不足の解消は、医学部定員増だけでは済まない(解決しない)、学部新設や医学部卒以外の人が医師になるための大学である「メディカルスクール」(米、豪、韓で制度化)の承認など、抜本策を検討すべきである。

私も「消費税率アップの議論を知事会として行うべきではないか」と申し上げるとともに、『ふるさと税』については「住民税の一部をふるさと税とすることは、住民税に

②介護保険制度の今後の大きな課題は、介護職員の賃金などの職場環境の改善である。などの問題提起をし、厳しい地方の実情を踏まえた実質的な議論をすることができた。

# 未来へ！大きく展望を



LRTが走るオーストリアの首都

「宇都宮市は大きな過ちを(過去に)2回犯した」知事は6月18日の県議会一般質問で、バス大手の関東自動車、次世代型路面電車(LRT)導入検討のために宇都宮市が新設する検討会議への参加に難色を示していることについて「交通事業

者は、公共交通のあるべき方向性を検討する上で、欠かすことができない重要なパートナー」と述べ、参加を促す考えを示したうえで、こう述べた。

戦後復興に絡んで宇都宮市の大通りを100m道路とし、二荒山神社を中心とする地下街をつくる構想があったが、住民の反対で実現しなかったというエピソードを披露。

「結果として33mになった。実現していれば、今日の中心市街地の空洞化を防げたかもしれない」と指摘。その上で、LRT導入については「リスクの検討は当然必要。一方で30年後、50年後のビジョンも考えなければならぬ」と強調。「宇都

宮市の街づくりを進める上で有効な選択肢の一つにとらえる」と前向きな考えを表明した。

宇都宮市の復興計画は終戦の年に立てられ、「幹線道路幅を50mとし、緑地帯として旧城跡より二荒山神社付近を美しい散歩地域とし、東武前を100m幅の緑地帯とする」などとし、田川と釜川水路の三角州付近を水に親しめるオアシスとする計画もあった。

その後関東自動車から「LRTが導入されれば現状バス運行が不可能になる」との意見書が出されたことに対し、「バス路線をLRTに変えることが目的ではない」とし、「導入にかかわる議論は、関東自動車などの事業者との緊密な連携が前提条件」であることをあらためて強調した。

## 県が結婚や子育て支援

### 「とちぎ未来クラブ」を設立

結婚や子育てを支援する「とちぎ未来クラブ」の設立総会が8月6日、宇都宮市内で開かれ、県内の商工観光や農業、福祉、労働、教育、行政など40の団体・企業が参加。とちぎ出合いサポート事業では、出合いの場を提供するイベントを9月から計6回実施。NPO

団体やボランティアグループのイベント情報もホームページに掲載する。さらに、民生・児童委員などの中から「地域結婚サポーター」を委嘱し、結婚相談などにあたってもらう。

とちぎ子育て家族応援事業では、18歳未満の子どもや妊婦がいる家庭に



参加者と意見交換する知事

知事が県政の諸施策について県民と直接意見交換する対話集会「とちぎ元気フォーラムin壬生」が5月26日、壬生町の町中央公民館であった。知事は県南地区に整備する予定のリハビリテーション拠点施設について、

## 産業団地整備に課題

### とちぎ元気フォーラムin壬生

「今後移転整備が予定されている足利赤十字病院の移転先に併設する形で設置したい」との方針を示した。また「未利用県有地等の利活用案」で新競馬場予定地だった壬生町羽生田地区につき、「産業団地として企業誘致が可能かどうか、なるべく早く方向付けをしたい」と語った。

## 「資金と選挙 2つの戦い」

### 知事、政治生活25周年を祝う会

福田富一知事の政治生活25周年を祝う会が2月11日、宇都宮市内で開かれ、地元選出国會議員や県議、市町長、市町議員、後援者ら2000人余が会場を埋め尽くした。

知事は1983年、宇都宮市議に初当選。その後、県議、宇都宮市長を務め、2004年12月に

知事に就任した。知事はこれまでの政治生活について「生活資金と政治資金をどうやって得るかという戦い、そして8回の選挙という2つの戦いをしてきた25年だった」と振り返り「今後皆様さんの力を支えに、課題を一つ一つ乗り越え、少しでも多くの皆さんに



政治生活を振り返り挨拶する知事

誇れる栃木にしていきたい」と締めくくった。

「メイドイン栃木のお米は安心・安全で、しかもおいしいですよ」アジア最大規模の国際食品見本市「フード台北2007」が6月21日、台湾台北市のワールドトレードセンターで開幕。知事は開会式に出席するとともに、本県ブース前で各国から集まったバイヤーらにコメやトマトなど新鮮な県産農産物を力強くPRした。

本県の知事が、海外で農産物のトップセールスを行うのは初めて。知事は

「世界各国から多くのバイヤーが集まるフード台北で本県産品を紹介できたことは有意義だ」と語った。本県の参加企業・団体も昨年の4倍に増えた。県産農畜産品の輸出は、04年度のナシ(日光梨)とイチゴ(とちおとめ)から始まり、05年度はブドウ(巨峰)、06年度は米(なすひかり)やトマト、ヨーグルトが加わり18品目に拡大した。

その後知事は「とちぎの夕べ」に出席し、台湾関係者と交流を深めた。



来場者に県産米で作ったおにぎりを勧める知事

このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞の記事を抜粋させていただきました。

# 地元の要望に配慮を要請

## 足利銀行受け皿選定

知事は7月20日、石坂真一県議会議長とともに金融庁を訪れ、いづれも7月10日付で就任した佐藤隆文長官と西原政雄監督局長、同庁顧問に就いた五味広文前長官に個別に面会し、一時国有化されている足利銀行について、地元の要望に配慮して受け皿を選定するよう改めて要請した。足銀の受け皿選定は、受け皿候補から提出された事業計画書を精査する第2段階の作業中。同長官に知事は「これまで行ってきた要望に十分配慮して受け皿を選定していただきたい」と述べ、最終審査となる第3段階移行後に改めて地元としての要望活動を行う考えを伝えた。長官は知事の意向に理解を示し、第2段階は最も重要だとして慎重に審査を行っていると説明した。

《今年に入ってからのおおよその経過は次の通り》

2月5日、足銀受け皿選定に關し、県選出国会議員と県議会議長、県執行部が意見交換する第2回「3者懇談会」を県公館で開催。8日の金融庁ヒヤリングで知事が要望する内容について、外資が受け皿銀行の経営権を握ることに反対し、地元本店機能を置くよう求めることで一致。

2月8日、金融庁の2回目の知事ヒヤリングで、「地元資本の参入に考慮すること」「長期的、安定的な経営を目指す受け皿



WGの会合で山本金融相と知事

皿であること」など5項目の要望を示しながら、支配的な外資系への懸念など詳細な内容を説明。

4月23日、安倍首相や山本金融相に対し、受け皿選定に支障のない範囲での情報開示や受け皿が

長期的、安定的な経営を目指すことなどを要望。情報開示について金融相は「開示した場合の影響を考えると、要望に応えるのは難しい」と述べた。下村官房副長官は譲渡先の決定時期について「秋ぐらいがめど」との見解を伝えた。

6月4日、第3回「3者懇談会」を県公館で開催。国会議員と県が、国に対して再度要望活動を行うことで一致。

## 年金案内窓口を県が開設

知事は、社会保険庁の年金記録漏れ問題について、「早急に、県が知り得る範囲の情報提供を行う」と述べ、6月中旬に県民センターや各健康福祉センターなど出先機関計17カ所に年金に関する相談窓口を設置。窓口へ年金相談の問い合わせがあった場合、国や栃木社会保険事務局、県内の5社会保険事務所の相談窓口に取り次ぐなど、可能な範囲で協力する。

県は市町とも連携しながら、県内各地で相談態勢を整え、少しでも県民の不安解消に努めたいとする。

知事は「年金問題の解決は国が責任を持ってやるべき」と前置きした上で、「県民の皆さんの不安解消、払拭のために、市町と連携して努めていく」と述べた。

## 再就職の透明性確保

### 「県版人材バンク」創設へ

知事は3月27日の記者会見で、国で創設が検討されている新しい「人材バンク」制度の地方版として、県職員の新就職の再就職ありきとして、

「県版人材バンク」を新年度にも設置する考えを示した。公務員の「天下り」に対する批判が高まる中、透明性を高める必要があるとの判断。「夏場を目標に仕組みについて考えていきたい」としている。

また知事は、団塊世代の大量退職が見込まれることから「退職後の職員の就業機会を確保していくことも、事業主としての重要な債務だ」と説明。バンクでは、県退職者の人事情報と、団体・企業の求人情報を一か所に集約し、双方に提供する形態を想定。民間企業への再就職状況も公表する。

## 東奔西走の日々

- ◆1月1日 皇居／新年祝賀の儀に夫妻で出席
- ◆1月4日 幹部職員を前に年頭訓示／「県職員としての一分を果たす一年にしてほしい」
- ◆1月21日 日光市で高校総体開会式／「世界に飛躍を」
- ◆3月20日 県営処分場問題で那珂川町住民と意見交換
- ◆3月22日 宇都宮市／東北関東甲信越の市場関係者に「イチゴ王国栃木」PR
- ◆3月23日 デフリンピック2冠の原田さんに特別表彰／手話で「県民に希望と活力を与えてくれた」と挨拶
- ◆3月26日 宇都宮城址公園完成記念式典出席／「宇都宮を愛する拠点になってほしい」と挨拶
- ◆4月2日 新規採用職員に訓示／「県民から信頼される県庁マンに」
- ◆5月2日 自動車税はコンビニで

- ／「手軽に待たずに短時間で」とPR
- ◆5月18日 都内で「新しい日本をつくる国民会議」／「分権を期待」
- ◆5月19日 さくら市で第45回県植樹祭／「魅力あるまちに発展を」
- ◆5月27日 栃木市で第2回「とちぎの環境美化県民運動」実施
- ◆6月2日 鹿沼市で東武日光沿線初サミット／「広域連携に期待」
- ◆6月25日 芳賀地区ブロック別市町村長会議／6首長と意見交換
- ◆6月29日 とちぎ特使と懇談会／「栃木暮らしの魅力やアピール方法について助言を」と挨拶
- ◆6月30日 宇都宮・瑞穂野跨道橋開通式／「魔の交差点」返上期待
- ◆7月12日 熊本市／全国知事会議
- ◆7月14日 とちぎ元気フォーラム in 佐野
- ◆7月17日 栃木・両毛地区ブロック別市町村長会議

## 交通安全運動 一人一回一時間

交通安全事故を少しでも減らそうと、県は、春と秋に行われる「交通安全県民総ぐるみ運動」のどちらからか、全職員に1時間、ボランティアで交差点に立つよう呼び掛けている。

交差点に立つのは、警察官が交通監視を行う場所や、交通安全協会が設置するテント近くで、他のボランティアと一緒に「シートベルト着用」「携帯電話はやめよう」などの自作のメッセージボードを掲げ注意する。



メッセージボードを掲げて監視所に立つ知事

### 後援会のページ

## 各界の祝福をいただき 政治生活25周年を祝う大新年会

『福田とみかず君の政治生活25周年を祝う大新年会』が2月11日、宇都宮市内で2千人余のご参加を得て開催された。森山まゆみ自民党栃木県連会長はじめ政財界の方々の温かい祝辞をいただいた後、挨拶に立った知事はご参会ご一同に丁寧な謝辞を捧げ、25年間8回の選挙をふり返りながら二つの戦いにつき語った。

一つは生活と政治両面の経済生活。妻が実家に幾度となく無心したこと。それが未返済であること。だが県民みなさんに対する感謝の念と同様に、知事として粉骨砕身『元氣な栃木づくり』に努力することで恩返しをしてゆくこと。多くの方々の浄財の恩恵にたい

『福田とみかず君の政治生活25周年を祝う大新年会』が2月11日、宇都宮市内で2千人余のご参加を得て開催された。森山まゆみ自民党栃木県連会長はじめ政財界の方々の温かい祝辞をいただいた後、挨拶に立った知事はご参会ご一同に丁寧な謝辞を捧げ、25年間8回の選挙をふり返りながら二つの戦いにつき語った。

一つは生活と政治両面の経済生活。妻が実家に幾度となく無心したこと。それが未返済であること。だが県民みなさんに対する感謝の念と同様に、知事として粉骨砕身『元氣な栃木づくり』に努力することで恩返しをしてゆくこと。多くの方々の浄財の恩恵にたい

『福田とみかず君の政治生活25周年を祝う大新年会』が2月11日、宇都宮市内で2千人余のご参加を得て開催された。森山まゆみ自民党栃木県連会長はじめ政財界の方々の温かい祝辞をいただいた後、挨拶に立った知事はご参会ご一同に丁寧な謝辞を捧げ、25年間8回の選挙をふり返りながら二つの戦いにつき語った。

一つは生活と政治両面の経済生活。妻が実家に幾度となく無心したこと。それが未返済であること。だが県民みなさんに対する感謝の念と同様に、知事として粉骨砕身『元氣な栃木づくり』に努力することで恩返しをしてゆくこと。多くの方々の浄財の恩恵にたい



謝辞を述べる知事と喜江子夫人



民謡「さつき会」の皆さんの踊り

### 華ある集い ゆりの会新年会

知事の好きな百合の花にちなんで命名された『ゆりの会』の新年会が、2月18日午前11時からホテル東日本で開催された。女性ならではの華やぎの中、会場に活けられた高雅なカサブラシカが一層の趣きを添え、民謡「さつき会」のみならず、知事と喜江子夫人を囲み、会は時間を忘れてくりひろげられた。

### 福田富一、初の著書『先憂後楽』好評発売中!



福田富一初の著書『先憂後楽』を、政治生活25周年を記念して上梓。(発行・下野新聞社 定価1,500円)

『先憂後楽』とは、福田富一が政治の師として私淑した故岩崎純三先生自身が座右の銘としておられたもの。人より先に憂え、人より後に楽しむ、の意です。生い立ち、家庭生活、交遊録、政治理念とその実践、日々雑感等多岐にわたり、一気にお読みいただける魅力的な内容です。ぜひともご一読下さい。

### 『福田家の茶の間』

5月3日、夫の実家の田植を手伝いに行く朝、夫は早々に身支度を整えて、私が食卓を片付けるのを横目でちらちらと見ている。思わず「後から行くから先に言う」と、「何を言っている」といいう顔をして、「一緒に行くんだ」と一言。

2人にとっては精一杯急いで行つたつもりだが、もうすでに近所の人達が手伝いにきて、田植が始まっていた。

父に「早いなあ」と笑われながら代わって夫が田植機に乗る。最初はなかなかまっすぐに植えられなかったが、5



回6回往復するうちにまっすぐにたて直ってきた。道行く人たちが「さすがだね!」と冷やかに座ってそんな夫を眺めている。

心地よい風、澄み切った青空、時間が止まったように静かな空間。日頃忙しく過ごしている夫にとつては最高のひと時のだろう。

夫に手を引いてもらい、初めて乗った田植機の上で、「はいっポーズ!」

あれから3ヶ月、本当にさまざまな出来事があった。稲は元気に育ち、穂は早くもこうべを垂れ、あのどかな時間が遠い日のことに思われてくる。

福田知事の『先憂後楽』に寄せて

米国在住50年・元ワシントン高校教諭 池野のぶ

一九八四年に、県立宇都宮北高校と米国タルサのワシントン高校は姉妹校となった。その縁結びをした私は、当時宇都宮市長だった富一さんを知った。なんと若く頼もしく、気骨ある政治家であろう、との印象を受けた。

『先憂後楽』を私は一気に拝読、私の福田評価の正しさが裏付けられた思いがするのだった。自ら進路を切り開きつつ常に先達の教えを守り、県民の声を真摯に受け止める。その奥に、日本古来の謙虚な愛情を注いでこられたご両親の存在が見え、感銘を禁じえない。知事となつてなお、長男としての自覚のもとご生家の田植をなさるご様子。こんな人に県土と日本の将来を委ねたいものだ、と、遠くアメリカから祈るばかりである。

### 文化講演会のお知らせ

講師 佐々木愛先生(女優)  
 演題 『女優2代』  
 日時 9月6日(木) 午後6時30分 開会  
 場所 宇都宮グランドホテル  
 入場料 1,000円

※チケットご希望の方は事務所までご連絡下さい



講師の佐々木愛先生

### 編集後記

知事の後援

どんな所か、とお考えでしょうか。ここ江曾島町の広い土地を25年来知事を支援される方からお借りして、そこにあるプレハブ一階建ての質素な事務所です。周辺はほとんどが畑で、開けっぴろげの窓から自然の恵みの心地よい風が吹き通ります。どこから迷いこんだか、めん鶏が庭に住み着いて道ゆく人々の微笑を誘ったり、後援会の方達が花を植えてくださるなど、まことに平和です。近くにお出かけの折にはお立ち寄りくださるよう、皆でお待ちいたします。

### ◆福田富一 後援会事務所

宇都宮市江曾島町98番地  
 電話 028(645)5100  
 FAX 028(645)1124

### 平成19年度スケジュール予定

- ・ハイキング
    - 日時 8月5日(日)午前4時半
    - 場所 尾瀬沼
  - ・講演会
    - 講師 佐々木愛先生(女優)
    - 日時 9月6日(木)午後6時30分
    - 場所 宇都宮グランドホテル
  - ・知事と語る会
    - 日時 11月28日(水)午後6時30分
    - 場所 アピア
  - ・もちつき大会
    - 日時 12月2日(日)午前11時
    - 場所 今宮公園
  - ・ゆりの会新年会(女性のみ)
    - 日時 2月24日(日)午前11時
    - 場所 ホテル東日本
- ※詳細につきましては、後援会事務所にお問合せ下さい。